

気仙沼・南三陸 高齢者食形態マップ活用にあたって

1 策定の背景

平成25年度に気仙沼管内の病院・福祉施設の各給食施設（以下「各給食施設」という。）における食形態の実態を把握するために調査を実施したところ、同一の名称であっても実際の食形態、調理の形状が異なっていることがわかりました。各給食施設においては、日ごろ一人ひとりの摂食・嚥下機能に対応した食事の提供につとめているものの、高齢者の入退所（入退院）の際には食形態の連続性が保てず、入所者（患者）にとってはQOLの低下につながりかねない状況です。

このことから、医療・福祉における連携体制の構築のほか、在宅支援等に活用することも視野にいれ、各給食施設において摂食・嚥下機能に関する知識や理解を深めるとともに、食形態に関する情報の共有及び統一化を図ることを目的として「気仙沼・南三陸 高齢者食形態マップ」を策定しました。

2 気仙沼・南三陸 高齢者食形態マップについて

- ・対象者は高齢者とし、副食の食形態について示したものです。
- ・気仙沼管内の各給食施設間の移動時や施設内で栄養士等が使用することを想定しています。
- ・現時点では硬さや凝集性、付着性等の数値の提示は行っていません。そのため、参考として日本摂食・嚥下リハビリテーション学会や嚥下ピラミッド、UDF（ユニバーサルデザインフード）との対応について記載しています。
- ・実際の調理においてそれぞれの形態がイメージできるよう平成25年度の調査等の写真を掲載しています。

3 活用にあたっての注意点及び今後について

医療・福祉における連携体制のために策定したものであることから、各給食施設においてもマップの名称・形態にすることが望ましいです。

今後は食形態の統一化を目指し、各給食施設において食形態マップに基づく取り組みを進めていきます。また、入所者（患者）個人の状況に応じた食事の提供やマップにない食形態については、個別に対応するなど施設の状況にあわせて随時対応することとします。

また今回策定した食形態マップはあくまでも専門職向けであるとともに、平成26年度時点でのものであり、今後各給食施設における活用状況や新たな摂食・嚥下における研究が発表された際には新たに改定していきます。

（参考文献等）

- 1) 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会(2013)「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013」『日摂食嚥下リハ会誌』 17(3):255-267
- 2) 金谷節子(2006)「ベッドサイドから在宅で使える 嚥下食のすべて」医歯薬出版
- 3) 日本介護食協議会(2002)「ユニバーサルデザインフード区分表」(<http://www.udf.jp/about/table.html>)
- 4) 東京都北多摩西部保健医療圏高齢者食形態基準(2012年版)
(<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/tthc/eiyou/eiyou/syokukeitai.files/260201koureishashokukeitaijun.pdf>)